

前回に続き、立野ダム工事事務所からの説明です。今回は、ダムと周辺の景観・環境保全についてお伝えします。

○景観保全の取り組みのり面(斜面)の緑化

立野ダム建設予定地周辺は、「阿蘇・くじゅう国立公園」内に位置しているため、地域の豊かな自然環境と共生したダムづくりを目指し、事業を実施しています。

熊本地震による被災箇所への復旧やダム本体の工事によって発生する「のり面(斜面)」に、安全性や維持管理を考慮しながら、工事完了後、早期に周辺環境・景観に溶け込むような工夫を行っています。その取り組みの一つとして実施している「実生の森育成プロジェクト」では、工事箇所から採取した樹木の種や苗木を数年かけて育て、工事が完了した箇所に植樹することで、早期の緑化を図ります。



昨年の「実生の森育成プロジェクト」

阿蘇ユネスコジオパークとの連携

ダム上流の立野峡谷は、阿蘇の始まりを知ることが出来るジオサイトとなっていることから、工事に伴う改変を最小限にするよう努めています。その取り組みとして、ダムサイトの右岸側に広く分布する立野溶岩の柱状節理について、ダム本体工事の基礎掘削範囲を最小限にし、ダム完成後は、管理用通路を利用し、間近で鑑賞・観察することができるようになります。



完成イメージ(上流側)

また、熊本地震で動いた布田川断層も、阿蘇ジオパーク推進協議会と連携して、説明看板等の設置を行っています。



布田川断層の説明看板

このように、流水型ダムの特性を活かして、立野峡谷の魅力を活用したジオガイドツアーなどの利活用についても、検討を進めてまいります。



ツアー案(立野峡谷でカヌー体験)

○環境保全の取り組み

環境調査・巡視の実施

環境保全の取り組みとして、専門家からなる「立野ダム環境保全検討委員会」を設置し、事業実施による環境への影響について予測・検討して工事を行うとともに、継続的なモニタリングや巡視を行うなど環境に十分配慮して事業を進めています。



環境調査の実施状況



環境巡視の実施状況

○まとめ

立野ダム建設事業は、今後も周辺の豊かな自然環境や景観に配慮し、関係機関と連携しながら丁寧な事業を実施していきます。

立野ダム工事事務所  
TEL 096(385)0707  
<http://www.qsr.milt.go.jp/fateno/>

9月号から3回にわたって、立野ダム工事事務所からお話を伺いました。来月は、ダムと地域(南阿蘇村)の関わりについてお伝えする予定です。